

特集

古裂鑑賞のいろは

— 加賀藩前田家伝来 名物裂の世界 —

Thematic Exhibition

The ABCs of Antique Textiles

Prized Pieces Passed Down by the Maeda Clan

2026年4月21日(火)～7月12日(日)

東京国立博物館 東洋館5室



安土桃山時代に千利休（1522～91）が大成した「茶の湯」のなかで、特に重んじられた茶道具を「名物」と呼びます。江戸時代に入り、著名な寺院や高僧、茶人などにゆかりをもつ裂に関し、由来にあわせた特別な名前をつけ珍重する「名物裂」の価値観が形成されました。名物裂は、宋元時代から明時代にかけて中国で製作され、日本に舶来した染織品が中心ですが、なかにはインドやイラン製のものもみられます。当時の日本人にとって珍しかった織物や染物を、掛け物の表具や茶道具の袋（仕覆）などに仕立てたのです。

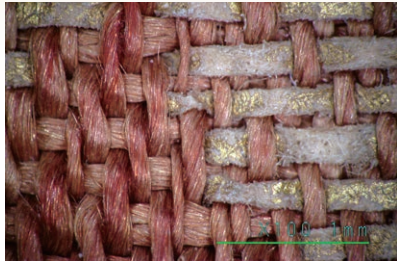
加賀、能登、越中の3国を治めた加賀藩前田家は、3代当主前田利常（1593～1658）の時代より、多種多様な裂を蒐集しました。昭和に入り、そのコレクションの一部が東京国立博物館に収蔵されました。本特集では特別展「百万石！加賀前田家」（4月14日〈火〉～6月7日〈日〉）にあわせ、前田家伝来の名物裂を展示します。一口に名物裂といっても、文様、技法、質感と裂の特色は千差万別です。昔の茶人はそれらを見分け、深く味わっていました。古裂の特徴をつかむことは一見難しそうですが、作品の拡大写真を介すことで、茶人が感じ取っていた裂の個性を読み取ることができます。古裂鑑賞のいろはを、写真や図を交えながら丁寧に紹介します。

Japanese tea practitioners traditionally admired imported textiles produced in countries such as China, India, and Iran. Called in Japanese *meibutsu gire* (“famed textiles”), they were used as mounting textiles for hanging scrolls and to make bags for tea utensils. These textiles were given names associated with their origins, such as famous temples and tea masters.

The Maeda clan of the Kaga domain, in modern-day Ishikawa Prefecture, began collecting a wide variety of these famed textiles from the era of the third head of the clan, Maeda Toshitsune (1593-1658). This exhibition features prized textile pieces passed down by the Maeda clan. It also explains the basics of appreciating antique textiles.

金襴

金襴は金糸を用いて文様を織り出した織物で、宋時代より製作され始めたといわれます。元から明時代の中国の金襴は日本の高僧の袈裟や、神々に奉納するための舞楽、能装束の衣装にも用いられており、珍重されてきたことがわかります。名物裂では、金箔を紙に貼りつけ、細く裁断した平金糸を織り入れた作品が多くみられます。顕微鏡写真にみえるように、現在では金箔が落ちてしまっている部分もありますが、当初は一層の輝きを放っていたことでしょう。(沼沢)



顕微鏡画像 (×100)



(部分)

丹地花葉文様金襴 大鶏頭金襴

Textile with Flowering Plants, Named "Gold Brocade with Large Cockscombs"

中国 元時代・14世紀 前田家伝来 TI-313

特に、大きく花葉文を織り出したものを大鶏頭と呼びました。平金糸を緯糸一越おきに入れ、経糸で抑えて文様を表わしています。



角倉金襴

花樹の下に立ち、後ろを振り返る愛らしい兎が平金糸で織り表わされます。このような裂を茶人の角倉了以が愛用していたことから、「角倉金襴」という名がつけられました。右の作品と同じ裂が、東京・前田育徳会所蔵「大名物 古瀬戸肩衝茶入 銘 浅茅」の仕覆のひとつに用いられていたことがわかりました。この袋もすでに引き解かれています。前田家において、角倉金襴を重んじていたことがうかがえます。(沼沢)

※「大名物 古瀬戸肩衝茶入 銘 浅茅」は特別展「百万石！加賀前田家」にて展示の予定です。角倉金襴の解袋は展示されません。



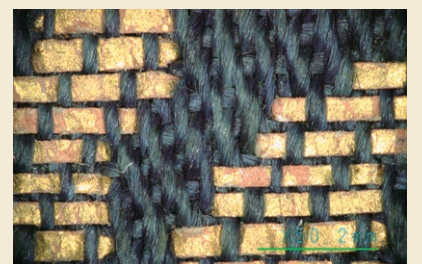
(部分)

濃萌黄地花兎文様金襴 角倉金襴

Textile with Flowers and Rabbits, Named "Suminokura's Gold Brocade"

中国 明時代・16~17世紀 前田家伝来 TI-190-13

平金糸にみえる赤みは、金箔を紙に貼りつける際に用いた朱漆です。平金糸を密に入れ、花兎を表わします。



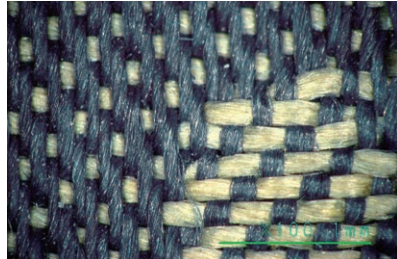
顕微鏡画像 (×50)

緞子

緞子はあらかじめ染めておいた絹糸を用い、地と文様を同じ織り方で織った織物です。元時代から織られたとみられ、美しい絹の光沢と柔らかな手触りが特徴です。なかでも、中国で「閃緞」ともいう、経緯に異なる色を使い、つち落ち着いた色調でまとめた緞子が、日本の茶人に愛されました。
(廣谷)



(部分)



顕微鏡画像 (×100)

紺地龍牡丹唐草文様緞子 珠光緞子

Textile with Dragons and Peony Vines, Named "Shuko's Damask"

中国 明時代・15~16世紀 前田家伝来 TI-190-36

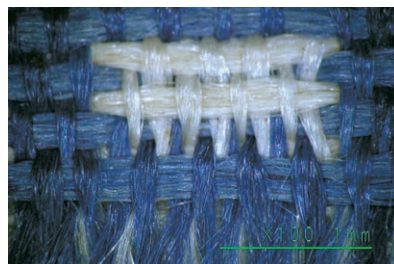
華奢な牡丹唐草の合間に龍が躍ります。艶のある風合いで、経糸と緯糸に異なる色を用いているため、はっきりと文様が浮かびます。

風通(錦)

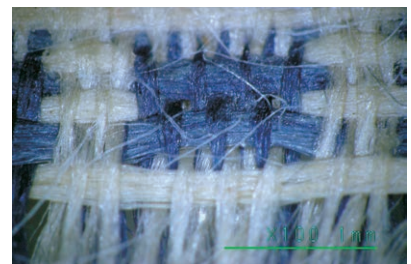
風通は、二組の経糸と緯糸が表裏でそれぞれに交差し、隙間に風が通るような二重構造の織物を指します。表裏が同じ文様で反対の配色になり、文様の輪郭に沿って袋状になるのが特徴です。名物裂では、広く錦のなかに含みます。(廣谷)



(部分)



顕微鏡画像 (×100) 表



同裏

紺白地算崩輪宝文様風通 糸屋風通

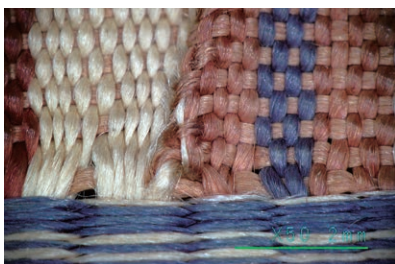
Textile with Wickerwork and Dharma Wheels, Named "Itoya's Double-Weave Cloth"

中国 明時代・16~17世紀 前田家伝来 TI-346

地紋が風通(二重織)のため、算崩の線を表わす白色は、裏では紺色になります。その上に輪宝を平金糸で表わし、手が込んでいます。

間道

間道は、縞や格子、縹を表わした絹や木綿の織物の総称で、中国南方や南・東南アジアよりもたらされたとみられます。多くは色鮮やかな糸を経緯に並べ、密に織り出します。緯糸に途中で別の色の緯糸を繋いだり、緯糸を浮かせて変化をつけたりすることもあります。一見地味な織物ながら、さりげなく施された技巧が洒落ています。(廣谷)



顕微鏡画像 (×50)

丹地格子縹縷文様間道 望月間道

Striped and Checked Textile, Named "Mochizuki's Striped Cloth"

中国 明時代・15~16世紀 前田家伝来 TI-190-31



(部分)



赤地に紺や白の糸を織り入れて2色の縞や格子、浮織を表わした間道。素朴ながら随所に手わざが光ります。

反物全図



飛魚の袍

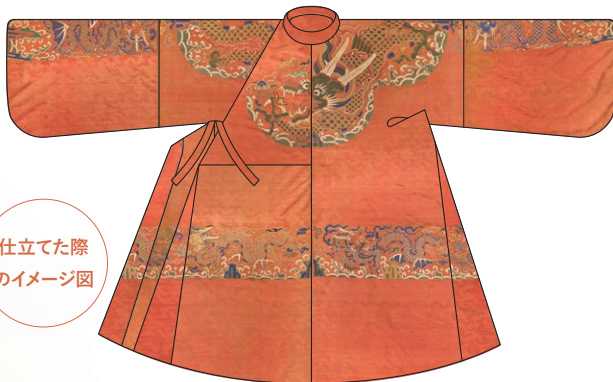
袍とはワンピース型の上衣を指します。この反物は全長 15m もあり、図のように裁断し、縫い合わせると、丈 135cm 前後、衿 125cm 前後の袍が一領できあがります。首回りと膝、肩部分に飛魚を配置します。現存する明時代のほかの袍をふまえると、裏地をつけない単仕立てとし、袖下は弓なりにカーブさせると考えられます。両脇にあえて裂を縫い足すのも特徴で、この部分は「襷」と呼ばれます。

飛魚の袍は、明時代において皇帝から臣下に下賜される、特別な衣装のひとつでした。(沼沢)

反物裁断図



仕立てた際のイメージ図



直隸監察御史黃紀賢
辨驗官直隸太平府同知楊際明
□□官応天府知事冉夢龍
機戸

織留裏面に、官吏の人名と役職が印版で刷られています。明時代には、官吏が地方や民間の工房（機戸）の織物の品質を管理していました。印版からは、直隸州応天府（南京）の織物を、辨驗官を務める同知（府の長官）の楊際明が点検し、さらにその働きを監察御史黃紀賢が確認するという、厳重な仕組みであったことがわかります。黄紀賢は、四川出身で万曆8年（1580）に科挙に合格し、地方官吏を歴任した人物です。冉夢龍も万曆年間初頭に応天府の知事（長官）であることが記録に残ります。（廣谷）

飛魚袍反物 紅雲文様緞子地縫取織

Textile for an Outer Garment, with Flying-Fish Dragons (Feiyu) among Clouds

中国 明時代・16世紀 前田家伝来 TI-453-24



特集 古裂鑑賞のいろは
—加賀藩前田家伝来 名物裂の世界—

令和8年（2026）4月20日発行

執筆：沼沢ゆかり、廣谷紀夏 撮影：藤瀬雄輔

翻訳：君波妙子（以上、東京国立博物館）

デザイン・制作：精興社

編集・発行：独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館

© 2026 東京国立博物館 Tokyo National Museum